

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKÉWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

**CONCISE EXPLANATION OF RELEVANCE OF
NON-ENGLISH LANGUAGE DOCUMENTS**

Applicant provides the following explanation of relevance of the non-English language document to the extent the foreign language document is understood or as otherwise indicated.

1. Chinese Patent No. CN 297255 -- Based on a review of FIGS. 1-19, this patent appears to disclose in one aspect a large portable shelter for a vehicle which can be assembled and taken apart as desired. The shelter includes an underlying supporting structure formed by connecting various beams together. A plurality of panels or a body is connected to the underlying supporting structure to form a large triangular structure, a roof, and canopy. The large triangular structure helps supports the roof and canopy of the shelter and is located on the passenger side of the vehicle. This large triangular structure, as shown in FIG. 19, for example, does not permit unobstructed access to the sheltered area as in the present invention as claimed. Further, there appears to be no teaching or disclosure in these figures as to a photovoltaic device associated with the canopy or roof, an electric load operatively connected to the photovoltaic device for utilizing electricity generated by the photovoltaic device when the photovoltaic device is exposed to light, or a light emitting diode associated with the photovoltaic device.

⑫ 公開特許公報(A) 平4-1376

⑤ Int. Cl.⁵

E 04 H 15/06

識別記号

庁内整理番号

8913-2E

④ 公開 平成4年(1992)1月6日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 自動車のルーフキャリアによるオートキャンプテント

⑯ 特 願 平2-297255

⑰ 出 願 昭61(1986)2月3日

⑱ 特 願 昭61-20097の分割

⑲ 発 明 者 加 藤 喜 盛 神奈川県相模原市相南3-7-12

⑳ 出 願 人 加 藤 喜 盛 神奈川県相模原市相南3-7-12

明 細 書

1. 発明の名称

自動車のルーフキャリアによるオートキャンプテント

2. 特許請求の範囲

自動車と一体化させたオートキャンプテントにおいて
次のA、B、C、D、E、F、G、Hの事項を特徴とする
オートキャンプテントの構築装置に関する発明である。

A. 乗用車のルーフ面各コーナー部に頑丈なチョウツガイ式で
通常時においてはガソリン給油口状を呈した蓋(7)を
設け その蓋裏面に円筒状のルーフキャリア支柱受け(8)
をコンシールドさせて設置しておく。

B. ルーフキャリア支柱受け(8)の使用時における設定は
車体屋根面よりガソリン給油口状の蓋(7)を立て
こうもり傘支柱の傘ロック状の脚(3)とロック窓(10)
を備えつけたそれぞれのパイプを斜めの角度で一方では
ガソリン給油口状の蓋(7)により支持された挿入パイプ
と それを受けて基盤(5)上に対峙設置させた挿入固定
筒(4)とを挿入結合すじかいとさせて こうもり傘支柱
の傘ロック状の固定装置によりルーフキャリア支柱受
け(8)を固定させる。

C. 任意の高さのルーフキャリア(27)は車体両側面方向に
チョウツガイ(38)折りたたみ固定式及びスライド伸縮
固定式で突き出させる。

D. パイプ製のテント基盤棒(17)を設ける。

E. ジャッキ(18)の底面部に溶接固定させた鉄板上で
同じく溶接固定一体化させたテント支柱挿入固定筒(16)
及び基盤棒パイプ固定接続筒(14)を使用する。

F. テントの骨組みパイプの接続は パイプ接続筒(14)
において 挿入パイプの挿入部に こうもり傘支柱の
傘ロック状の脚(3)を備え パイプ接続筒(14)には
ロック窓(10)を備えさせてパイプの接続固定装置と
させる。

G. 車体外側面方向に突き出させたルーフキャリア先端部
(40)はテントを装着させた屋根棒(25)に固定接続
させる。

H. テント屋根棒(25)において枠型に合わせた
発泡スチロールを芯とさせた化粧板(30)をかぶせて
その上からテントを装着させる。

3. 発明の詳細な説明

イ、発明の目的

産業上の利用分野

自動車の側面方向に突き出させたルーフキャリアと
及びジャッキで固定させた鉄板上で溶接固定一体化させた
テント支柱挿入筒及び基礎棒パイプ固定接続筒により
基礎棒及びテント支柱を固定構築させて設置させるオート
キャンプに関する。

従来の技術

自動車のタイヤでテント支柱受面を踏んずけて固定させて
張ったテント。

発明が解決しようとする問題点

本格的なリゾート時代を迎えてオートキャンプはまさに
誰にでも手の届く楽しいリゾートの在り方として注目されて
おります。自然環境を破壊することなしに誰もがモラルを
守って好きなところへ移動して自然の中でいながらにして
スポーツやウォッチングを楽しむにはオートキャンプが一番
であります。オートキャンプは車体と一体化させた
テントの設置で はじめてその喜びが確かなものとなるので
あります。車両にはそれだけで立派な居住性や快適な装備
が確立されているからです。車体を利用したテントの設置は簡便さと堅牢性が構築されやすいという適性があるということに着目すべきであります。そうしますと簡便性と堅牢性及び収納携帯性が具備されたオートキャンプテントの手段が自然に導かれてくるでめりましょう。

- D. キャンプテントの裾部を固定させるテント基礎棒 (17) を
設ける。

- E. 乗用車の車体重の加重力を利用して
オートキャンプのテント支柱や基礎棒パイプの固定力とさせ
るための装置としてジャッキを使用させる。
ジャッキ (18) の底面に溶接固定させた鉄板上で同じく溶接
固定一体化させてテント支柱挿入固定筒 (16) 及び基礎棒パイ
プ固定接続筒 (14) とさせる。

- F. テントの骨組みパイプの接続はパイプ接続筒 (14) において
挿入パイプ (13) の挿入部面に こうもり傘支柱の傘ロック
状の筒 (3) を パイプ接続筒 (14) にはそれを受ける
ロック窓 (10) をそれぞれ挿入接続固定装置として備えつけ
て固定一体化させる。

- G. 車体外側面方向に突き出させたルーフキャリア先端のボルト
部 (40) はテント (33) を装着させたテント屋根棒 (25)
に貫通式で挿入させてテント外面側には雨もり防止用の
バックン (37) をあて双方からワッシャーナットで締めつけ
固定化させる。
これはテントの簡便な設置及びその収納に大きな効果を
もたらす。

- H. テント屋根棒 (25) においてその型枠に合わせて成型させた
発泡スチロールを芯とした化粧板 (30) をかぶせて
その上からテント (33) を装着させる。

ロ、発明の構成

問題点を解決する手段

自動車と一体化させたオートキャンプテントにおいて
次の A、B、C、D、E、F、G の事項を特徴とする
オートキャンプテントである。

- A. 乗用車のルーフ面各コーナー部に頑丈なチョウツガイ式で
通常時においてはガソリン給油口状を呈した蓋 (7) を
設け その蓋 (7) 裏面に円筒状のルーフキャリア支柱受け
(8) をコンシールドさせて設置しておく。
- B. ルーフキャリア支柱受け (8) の使用時における設定は
図面第 1 図にあらわしたとおり車体屋根面よりガソリン給油
口状の蓋 (7) を立て こうもり傘支柱の傘ロック状の
筒 (3) とロック窓 (10) を備えつけたそれぞれのパイプを
斜めの角度で一方はガソリン給油口状の蓋 (7) により支持
された挿入パイプ (12) とそれを受けて基礎 (5) 上に対峙
設置させた挿入固定筒 (4) とを挿入結合、すじかいとさせ
てこうもり傘支柱の傘ロック状のパイプ固定装置により
ルーフキャリア支柱受け (8) を固定させる。
- C. キャンプ時においては テントを高めに設置させるためにキャ
ンプ用ルーフキャリア支柱 (28) をルーフキャリア支柱受
け (8) に挿入固定してルーフキャリアの高さを確保させる
またルーフキャリア (27) は車体外側方向にチョウツガイ
による折りたたみ固定式及びスライド伸縮固定式で
突き出させる。

- I. テント屋根部上にはテント (33) 収納時において必要な
テント屋根棒 (25) 下にテントを固定させたロープを接続固
定させるためのリングを固定装置しておく。

作用効果

テントの設置収納が簡便である。
構築されたコンクリート上でも設置が容易可能である。
テント基礎棒内にはすじかいパイプでできた形に合わせた
発泡スチロールの三角形のユニット化粧板としてをはめこん
で平らな面をつくるとよい。軽いし携帯性もよい。
乗用車で移動するので快適に目的地に到着しゆったりとした
居住空間を創設できる。釣りにも最適。

天井部に固定化させたテントの収納はまずテント裾部を
それぞれ基礎棒パイプからはずしテント支柱も取り除き
天井棒パイプに仮支柱をテント外側からあてて立て
天井からぶらさがったテントの四方をしぼって寄せ集めて
ベルトで固定してからロープのついたスプリングフックを
ベルトにひっかけてそのロープをテント屋根部上に固定させ
たリングにとおし引き上げロープを丁度ふんどうし状にテント
裾部を締め上げて反対側の屋根に固定させたリングにスプリ
ングフックで固定させる。
次に仮支柱の高さを高さ調節ネジで車体のルーフキャリア
支柱受けの高さに合わせ、ルーフキャリアのテント用支柱も
はずし 通常走行中のルーフキャリアの高さにもどしてから
仮支柱を取り除き、そのままルーフキャリアのチョウツガイ
部を利用して反転しルーフキャリア上に積載させる。
テント積載後のルーフキャリア上にはチョウツガイ部と
テント屋根部との幅の余白積載部が生じるので そこへ
パイプ収納部をルーフキャリアの余白部に収納箱底面にある
固定溝をはめこみ積載させる。

寸法を揃えたパイプの収納は収納箱の底のほうから積み重ねるとき図面第13図(48)にあらわしたように一本ずつパイプ備載用の固定棒にさしこんでからベルトで絞めると容易である。
最後にカバーをかけて常時携帯させたドライブが可能である。
その他シャツキ等はトランク内へ収納させる。

同様な実施態様では

図面第16図及び第17図にあらわしたドライブ休息用テント。これは全く設営収納簡単タイプ、常時携帯性抜群。ドライブにはかかせないものとなりましょう。

図面第18図及び第19図にあらわしたものは車体ルーフ上に寝室を設けたスタイルのテントであります。
寝室枠(51)に合成皮革製の網をビーンと強めに張ってカーベットの敷きシラフなどで休息をとる。

第3図及び第4図はパイプ接続部における挿入態様をあらわした斜視図である。

- (3) はこうもり傘支柱の傘ロック状の脚
- (10) はロック窓
- (13) は挿入パイプ
- (14) はパイプ接続筒

第5図はジャッキ底面に溶接固定させた鉄板上で同じく溶接固定一体化させたテント支柱挿入固定筒及びテント基礎棒パイプ固定接続筒をあらわした斜視図である。

- (10) はロック窓
- (14) は基礎棒パイプ固定接続筒
- (15) はパイプ固定接続筒の挿入口
- (16) はテント支柱挿入固定筒
- (18) はジャッキ

第6図はオートキャンプテントの骨組構造輪郭をあらわした斜視図である。

- (17) は基礎棒パイプ
- (18) はジャッキ
- (20) はすじかいパイプ
- (21) はテント支柱
- (22) はスプリングフック
- (23) はロープ
- (24) はテント屋根枠コーナー部に備えたロープ固定リング
- (25) はテント屋根枠
- (26) は車体外側面方向に突き出させたルーフキャリア部
- (27) はルーフキャリア
- (28) はキャンプテント用ルーフキャリア支柱
- (29) はルーフキャリア支柱受け部

4. 図面の簡単な説明

図面

第1図は乗用車のルーフ面下にコンシールド設置させたルーフキャリア支柱受けの使用時における態様をあらわした斜視図である。

- (1) はパイプ支柱固定ネジでパイプ貫通式で裏裏面で締めつけ固定させる。
- (2) は挿入パイプの脚型ストッパー
- (3) はこうもり傘支柱の傘ロック状の脚
- (4) は挿入パイプを受けて基盤上に対峙設置させた挿入固定筒
- (5) は基盤
- (6) は固定ビス
- (7) はガソリン給油口状の蓋
- (8) はルーフキャリア支柱受け
- (9) はガソリン給油口状の蓋に支持された挿入パイプ外筒
- (10) はロック窓
- (11) は基盤面上に設けたルーフキャリア支柱固定凹部

第2図はルーフキャリア支柱受けを固定させるすじかいパイプの拡大斜視図である。

- (2) は挿入パイプの脚状ストッパー
- (3) はこうもり傘支柱の傘ロック状の脚
- (4) は挿入パイプを受けて基盤上に対峙設置させた挿入固定筒
- (9) はガソリン給油口状の蓋により支持された挿入パイプ外筒
- (10) はロック窓
- (12) は挿入パイプ

第7図は第6図のテント屋根枠(25)に発泡スチロールで成型させた化粧板をかぶせたところをあらわした斜視図である。

- (17) は基礎棒パイプ
- (18) はジャッキ
- (20) はすじかいパイプ
- (21) はテント支柱
- (22) はスプリングフック
- (23) はロープ
- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (30) は発泡スチロールで成型させた化粧板

第8図は第7図にテントを装着させたところをあらわした斜視図である。

- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (31) はテント収納時のテント吊り上げ固定リング
- (32) はテント明かり窓
- (33) はテント
- (34) はテント出入り口のファスナーをあらわす

第9図は車体屋根部側からのテント上方部をあらわした斜視図である。

- (27) はルーフキャリア
- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (32) はテント車体側明かり取り窓
- (33) はテント
- (35) はテント収納時のテント吊り上げ固定リング
- (36) はナット
- (37) は雨もり防止パッキン
- (38) はチョウツガイ部

第10図及び第11図はテント収納時において
ルーフキャリア上にテントを積載させるための準備として
テントを束ねてロープで吊り上げ固定させたところをあらわした斜視図である。

- (22) はスプリングフック
- (27) はルーフキャリア
- (28) はキャンプ用ルーフキャリア支柱
- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (33) はテント
- (35) はテント吊り上げ固定リング
- (41) は仮支柱の高さ調節ネジ
- (42) は仮支柱
- (43) はバンド

第12図はルーフキャリアの高さを通常走行時の高さにもどし
キャリアチョウツガイ部でテント置根棒下に吊り上げ固定させ
テントを反転させてルーフキャリア上へ積載させたところ
をあらわした斜視図

- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (30) は発泡スチロールを成型させた化粧板
- (33) はテント
- (38) はチョウツガイ部

第13図は第12図のルーフキャリア上の積載余白に
はめこみ積載させるパイプ収納箱をあらわした斜視図である。

- (44) はパイプ固定ベルト
- (45) はバンド金具
- (46) はパイプ収納箱
- (47) はパイプ収納箱底面に備えた固定溝
- (48) はパイプ積載固定棒

第18図及び第19図は同様な実施態様による車体ルーフ上
に寝室を設けたスタイルのテントをあらわした斜視図である

- (17) は基礎棒パイプ
- (18) はジャッキ部
- (20) はすじかいパイプ
- (24) は吊りテント固定リング
- (33) はテント
- (34) はテント出入口用ファスナー
- (51) は合成皮革を強く張るためのハンモック棒パイプ

第14図はルーフキャリア上にテント及びパイプ収納箱を
積載固定させたところをあらわした斜視図である。

- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (30) は発泡スチロールを成型させた化粧板
- (33) はテント
- (44) はパイプ固定バンド
- (46) はパイプ収納箱
- (49) はパイプ

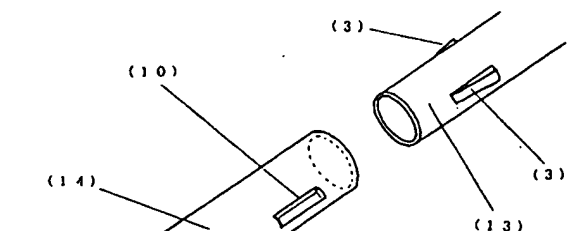
第15図は通常走行時におけるカバーをかけたところを
あらわす。

- (50) はカバー

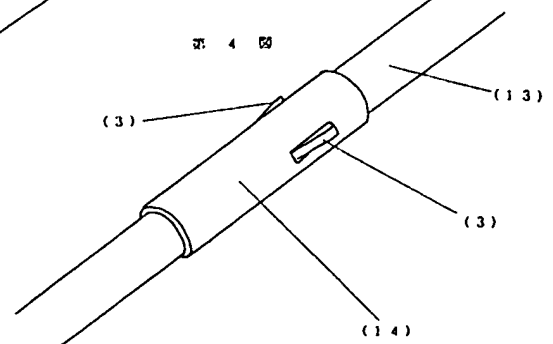
第16図及び第17図は同じ実施態様によるドライブ休息用
テントをあらわした斜視図である。

- (17) は基礎棒パイプ
- (18) はジャッキ部
- (20) はすじかいパイプ
- (21) はテント支柱
- (24) は車体外側面方向に突き出させたルーフキャリアに
設置させた吊りテント固定リング
- (26) は車体外側面方向に突き出させたルーフキャリア部
- (27) はルーフキャリア
- (29) はルーフキャリア支柱受け部
- (33) はテント

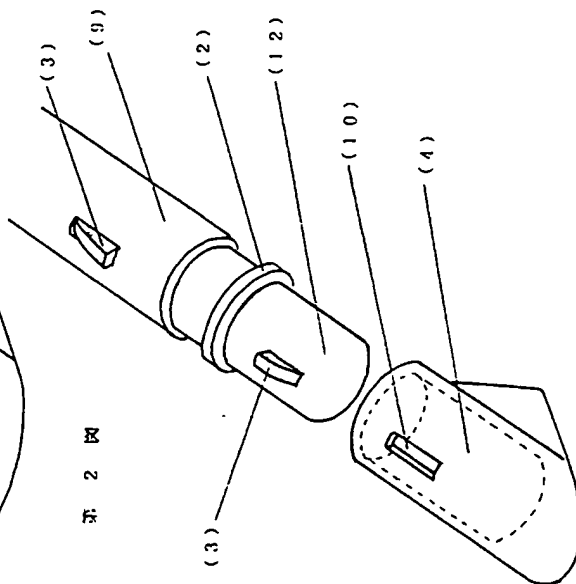
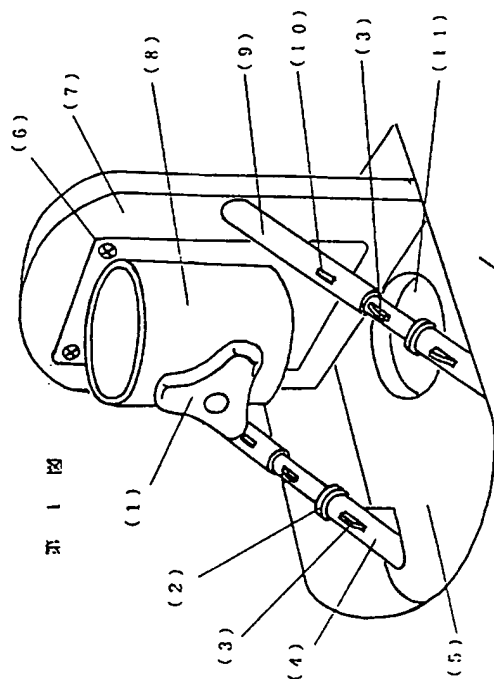
第 3 図



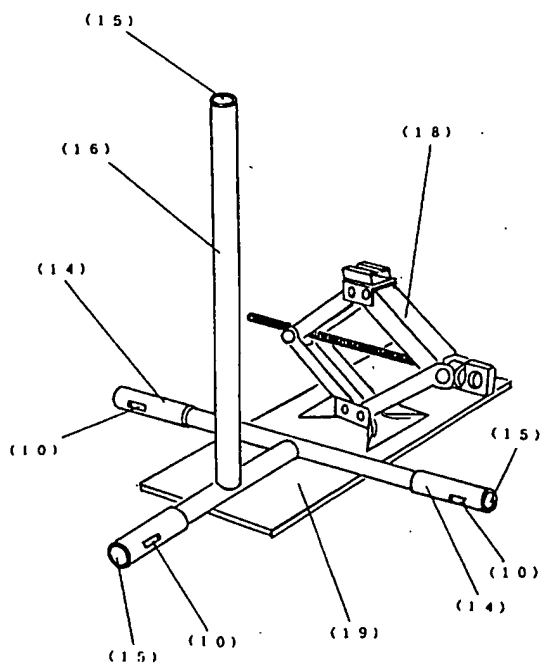
第 4 図



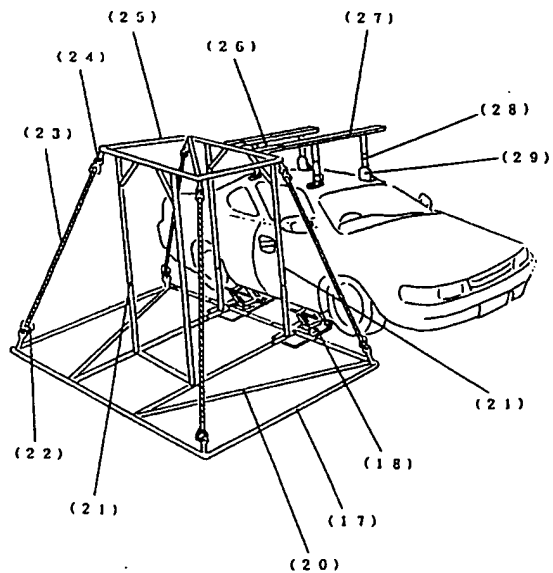
図面の浄書(内容に変更なし)



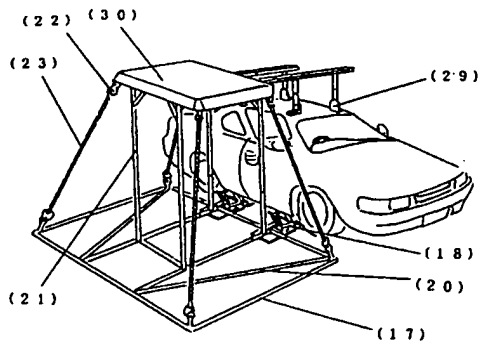
第 5 図



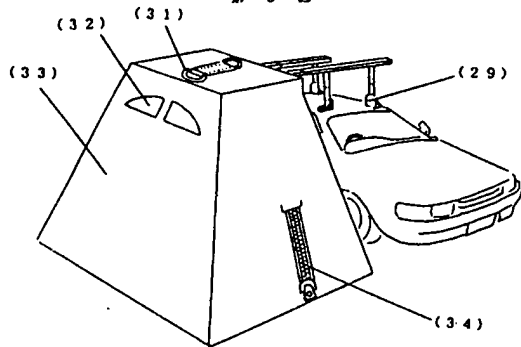
第 6 図



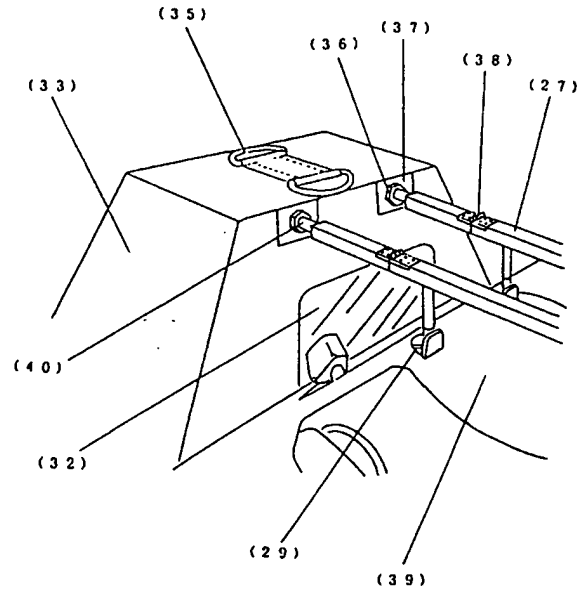
第 7 図



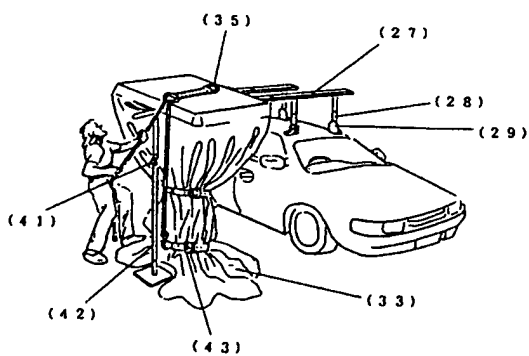
第 8 図



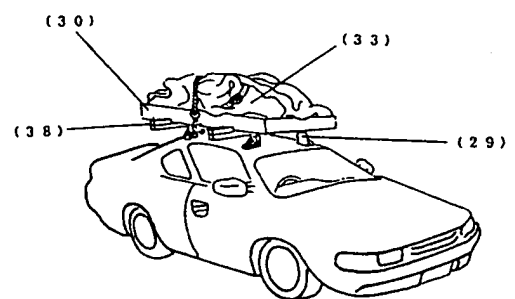
第 9 図



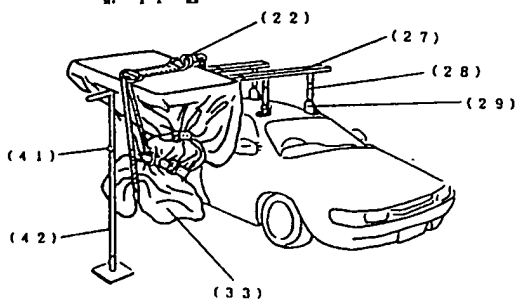
第 10 図



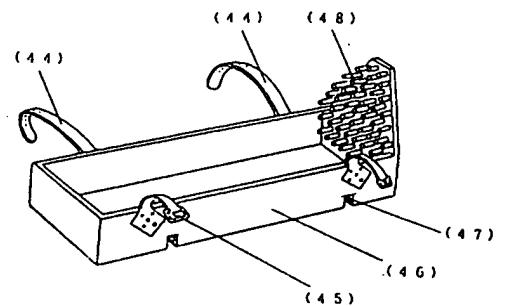
第 12 図



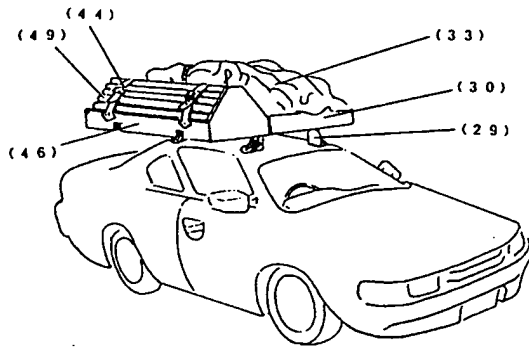
第 11 図



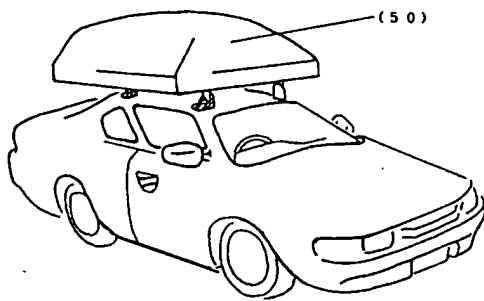
第 13 図



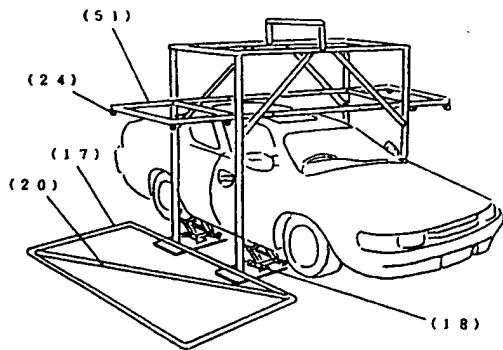
第 14 図



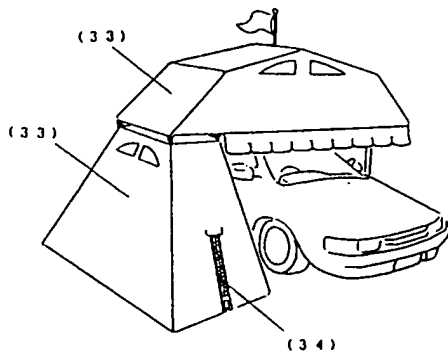
第 15 図



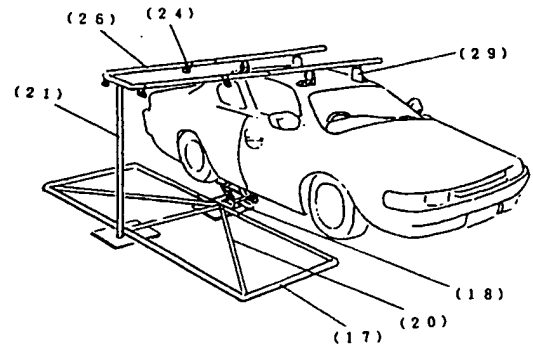
第 18 図



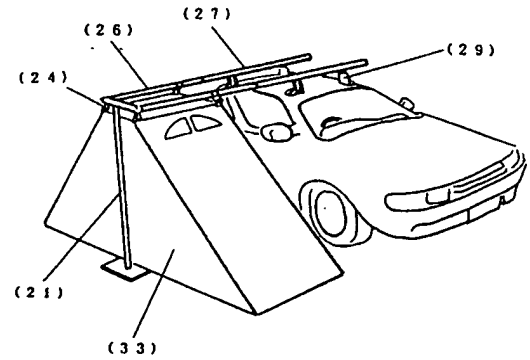
第 19 図



第 16 図



第 17 図



手続補正書 (方式)

平成 3 年 8 月 14 日

特許庁長官 深 沢 亘 殿

1. 事件の表示

平成 2 年 特許願第 297255 号

2. 発明の名称

自動車のルーフキャリアによるオートキャンプテント

3. 補正をする者

事件との関係

特許出願人

〒 228

住 所

神奈川県相模原市相南3-7-12

氏 名

加藤 喜盛

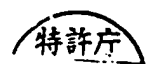


4. 補正命令の日付

平成 3 年 7 月 30 日

5. 補正の対象

図 面



6. 補正の内容

別紙のとおり (内容に変更なし)